

## キナの木



キナはアカネ科に属する熱帯性の高木です。樹皮からキニーネを抽出し、抗マalaria薬として長く使用されました。その歴史を紐解いてみますと以下の通りです。

Pelletier, Caventou(フランスの薬剤師):キニーネを単離(1820)

Charles Ledger:マalariaの蔓延によるキニーネ不足のためキナノキ種子をジャワでプランテーション(1855)

Srecker:キニーネの分子式( $C_{20}H_{22}N_2O_2$ )提出(1854)

Paul Rabe:キニーネの平面構造式提出(1908)

Vladimir Prelog:キニーネの立体構造決定(1944)

Knorr:キニーネの代用薬としてantipyrine、aminopyrine合成に発展(1859-1921)

当時マalariaは深刻な疾病でしたので、マalariaに関連するノーベル賞受賞も以下の通り行われています。

Ross(英):ハマダラカがマalariaを媒介(1897)

Laveran(仏):マalaria患者からマalaria原虫を発見(1907)

Müller(スイス):DDTを合成、殺虫活性発見(1939)

現在ではキニーネに抵抗性が出ていますので、キニーネに代わってアルテシニン(クソニンジンから抽出)誘導体を使用されています。マalariaは依然熱帯地方における脅威の一つで、現在も抗マalaria剤の開発が行われており、抵抗性の発現しない抗マalaria剤の創出が望まれています。